

[成果情報名]食味の良好な平坦地向き水稻晩生粳品種「ヒノヒカリ」

[要約]「ヒノヒカリ」は、熟期が“晩生の中”の粳品種で、やや少収であるが、粘りが強く、食感が柔らかく、食味に優れる。刈り取りの適期は、出穂期からの積算日平均気温が950～1150日である。

[キーワード]水稻、粳品種、ヒノヒカリ、良食味、刈り取り適期

[担当]山梨総農セ・栽培部・作物特作科

[代表連絡先]電話 0551-28-2496、電子メール sounou-gjt@pref.yamanashi.lg.jp

[区分]関東東海北陸農業・関東東海・水田畑作物

[分類]技術・普及

[背景・ねらい]

山梨県の平坦地向け水稻粳の奨励品種である「あさひの夢」と「農林22号」は収量性や耐病性に優れるが、より良食味の品種が望まれており、中生品種である「コシヒカリ」等が平坦地にも作付けされ、高温登熟障害による品質低下の要因となっている。そこで食味に優れた晩生の粳品種の選定を行うとともに品種特性を把握する。

[成果の内容・特徴]

- 1．平坦地における「ヒノヒカリ」の食味は、粘りが強く、食感がやや柔らかく、「あさひの夢」「農林22号」「コシヒカリ」に比べ優れる(表1)。
- 2．出穂期、成熟期ともに「あさひの夢」よりも5日、「農林22号」よりも3日程度遅い“晩生の中”である(表2)。
- 3．稈長は「あさひの夢」よりも10cm長く、「農林22号」よりも20cm短く、耐倒伏性は‘中’である。穂数は「あさひの夢」よりやや多い‘中間型’である(表2)。
- 4．千粒重は「あさひの夢」よりも1g程度小さい‘やや小粒’で、5%以上少収である(表2)。
- 5．玄米品質は「あさひの夢」、「農林22号」と同程度で優れる(表2)。
- 6．出穂期からの積算日平均気温950～1150日 で刈り取るにより収量、品質が安定する(表3)。

[成果の活用面・留意点]

- 1．県内の平坦地を対象に栽培する。普及予定面積は300ha。
- 2．極端な多肥栽培は食味を低下させるため、「あさひの夢」と同様の施肥体系とする。
- 3．生育期間が長く、他の品種よりも葉色が淡く経過するため、肥料が溶脱し易い砂壌土地域では分けつ期に2kg/10a程度の追肥を行うか、基肥に緩効性肥料を使用する。
- 4．いもち病の抵抗性は‘中’のため適正な防除体系で栽培する。

[具体的データ]

表1 「ヒノヒカリ」の食味評価

品種名	総合	外観	香り	味	粘り	硬さ
ヒノヒカリ	0.24 *	0.13	0.00	0.16 +	0.34 *	-0.12
あさひの夢	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
農林22号	-0.46 **	-0.48 **	-0.22 +	-0.35 *	-0.45 **	0.14
(参考)コシヒカリ	0.09	0.01	0.13	0.11	0.10	0.02

- 1) データは本場における2005,2006年の平均値(計4回 パネラー数32~46人)
- 2) あさひの夢に対し+3(かなり優れる)~-3(かなり劣る)で評価した値の平均値
但し粘りは+3(かなり粘る)~-3(かなり粘らない)
硬さは+3(かなり硬い)~-3(かなり軟らかい)で評価
- 3) **はt検定1%水準で *は5%水準で +は10%水準で有意な差が認められる

表2 「ヒノヒカリ」の特性

品種名	出穂期 (月日)	成熟期 (月日)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m ²)	玄米重 (kg/10a)	千粒重 (g)	倒伏程度 0-5	玄米 品質
場内試験									
ヒノヒカリ	8.23	10.06	88	17.8	424	599	22.3	1.1	2.2
あさひの夢	8.18	9.30	77	20.5	398	630	23.4	0.0	1.9
農林22号	8.21	10.03	113	21.2	364	626	22.9	3.3	2.2
現地試験									
葦崎 ヒノヒカリ	8.14	9.28	83	17.5	413	551	21.8	0.7	3.3
あさひの夢	8.09	9.23	75	19.3	418	656	23.0	0.1	2.5
田富 ヒノヒカリ	8.22	10.08	79	18.4	381	456	23.4	0.0	1.0
農林22号	8.19	10.01	94	21.1	302	457	23.0	1.5	1.0

- 1) データは本場(6月1半旬移植)、葦崎(5月上旬移植)は2005,2006年の平均値
田富(6月2半旬移植)は2006年の値
- 2) 場内試験の施肥(窒素)はヒノヒカリ・あさひの夢: 基肥+追肥 = 7+2kg/10a
農林22号 = 5+2kg/10a、現地試験は農家慣行
- 3) 倒伏程度は 0: 無 ~ 5: 甚で評価
- 4) 玄米品質は 1: 1等上 ~ 9: 3等下、10: 規格外で評価(農政事務所)

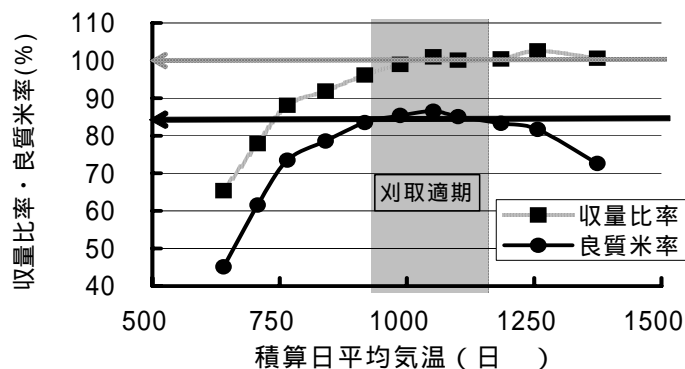


図1 積算日平均気温と収量・品質

- 1) 2006年本場の施肥(窒素): 基肥+追肥 = 7+2kg/10aでの結果
- 2) 収量比率は成熟期の収量を100とした時の比率
- 3) 良質米率は(株)静岡精機品質計 RS-2000で測定

[その他]

研究課題名: 水稻品種の比較試験

予算区分: 県単

研究期間: 1951年度~

研究担当者: 上野直也、石井利幸、花形敏男、古矢昌、久津間啓幸、大久保邦彦